

# エレベーター設置などに対応

KIZUKURI2X4Ver6.0

コンピュータシステム研究所

コンピュータシステム  
研究所(東京都、長

数値が求められるようにし、転倒モーメントによる短期接地圧の検討を可能にした。

2X4工法では、耐力壁線区画に代表されるようなプランの仕様規定が明示されており、上下の壁線区画の考慮に縛られてプランが限定されることがある。そのため、壁線区画の横架材としてマグサの配置が原則となるところを、床梁 $\parallel$ 床構面の梁で代用し設計することが増えている。

この場合、上階の耐力壁の挙動(主に回転力による壁端部軸力)が床梁で処理されるため、プランの関係で床梁を床梁で受ける設計をする場合に梁受け金物の検定検討が必要となる。これに対応するため、最新版では梁受け金物(梁梁)の検定と自動選定を追加。梁受け金物の耐力設定からこれらの検定検討が可能となった。これにより、利用者の手間と検討忘れも防ぐ。最新版は、11日に発売した。

尾良幸社長)は、木造建築物構造計算システムの最新版「KIZUKURI2X4Ver6.0」を開発した。2X4住宅の建築で近年増えている介護施設などの非住宅物件や都心の3階建て住宅に必要な機能をあぶりだし、エレベーター、太陽光パネル等の新しい設備に対応できる機能を備えた。意匠設計者にも利用できる構造計算システムとなっている。

エレベーター設置の設計で重要となるのが

地震力用建物重量、地震力の追加。戸建て住宅や小規模非住宅(グールプホームなど)に既製品のエレベーターを設置する事例が増えるなか、最新版では構造計算時に「モデル化した荷重」で対応してきたエレベーター荷重を直接設定できる。

また都市部の3階建て住宅の設計にも合わせ、転倒モーメントによる短期接地圧の検定機能を追加。「軸組構法設計手法」2017年グレース本」で求められている内容に沿った